



2009～10 年度
国際ロータリー会長

ジョン・ケニー

Weekly Report Niigata



2009～10 年度
新潟ロータリー会長

小林 敬直



新潟 RC 3月第4例会 (2010.3.23) No.2841

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱

(2) 小林 敬直会長挨拶

一年交換学生のステファーン君と米山奨学生のダビド君が、本日スピーチをされますので一年交換プログラムについてお話させていただきます。

米山奨学生については、いづれ米山梅吉の話をしたと思っていますので、その時にあわせてお話しさせていただきます。

前年度柴田年度には、青少年交換プログラムの記録をまとめた報告書が国際奉仕委員会より出され会員皆様のお手許に配布されております。

これを、ご一読頂きますと新潟クラブの一年交換のたどってきた道程が理解できると思います。

青少年交換は、高校生の年齢層の学生が、国際理解と親善を促進するために、1学年度、または夏期休暇中、海外に勉強または旅行する機会、または就学、生活する機会を与えるものです。その原型は 1920 年代にさかのぼり、

以来、世界中の学生とホストファミリーと呼ばれる家族が青少年交換という思いやりのあるプログラムで、未知への可能性を広げ、人生経験を深めてきました。

1972 年、国際ロータリー (RI) 理事会は、青少年交換を有益な国際活動として、世界中のクラブに推奨することに同意しました。そして、1974 年、RI理事会によってこのプログラムは採択されたのです。

以来、世界中の 120 万人以上ものロータリアンのネットワークを背景にして、現在では、毎年約 80 か国、おおよそ 7,000 人以上もの学生が、参加するプログラムになっています。日本においても 30 か国ほどの国へ約 250～300 人と、毎年多くの若者たちが、このすばらしいプログラムに参加しています。

青少年交換には、長期交換 (long-term exchange) と短期交換 (short-term exchange) の 2 種類があります。長期交換は通常、1 学年度の期間。この間、学生はホスト国で 1 つ以上の家庭 (日本の場合 3～4 つくらいが多い) に住み、学校に通います。

さて、短期交換の方は、期間は数日程度から数週間と幅があり、学校が休みのときに実施して、通常、学業は含まれません。全く日本語が話せなかったのに、帰国するころには、日本語で十分なコミュニケーションがとれるようになっていく。日本になんか来たくなかったと機嫌が悪かったのに、帰国するときには、帰りたくないと言っている。こんな交換学生たちの姿をご覧になった方も、多いと思います。このプログラムは、成長過程にある若い人が、対象なのです。ハプニングは、成長の大きなきっかけになるはず。そして、ロータリアン自身も、逆に若い人から得るものがあることと思います。家族に誰も英語ができる人がいないから預かれないと言わないでください。大丈夫です。子どもたちの方が、すぐに日本語を覚えてしまいますから。ぜひとも、ホストファミリーを一度体験してみてください。そして、一年交換学生のステファーン君と米山奨学生のダビド君を、よろしくお願ひ致します。

(3) 委員会報告

・竹石 松次会員増強委員長

昨年来、会員増強に協力願っています。4月23日の70周年記念迄に目標90人達成に尽力願います。現在85名です。

(4) 幹事報告（石井 和弘幹事）

豊栄ロータリークラブ創立40周年記念式典が6月12日（土）新潟市北区文化会館に於いて開催されます。詳細・申し込みは幹事が事務局へお願い致します。

(5) 「留学生のお話とギター演奏」

米山奨学生 アロンソ・デ・レオン・ダビド君

一年交換学生 ステファノ シスラー君



3月30日の例会予定

卓話「企業のブランドコミュニケーション戦略」

大和ハウス工業株

経営管理本部総合宣伝部上席執行役員 山本誠氏

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

新潟ロータリークラブ創立70周年記念式典

2010年4月23日（金）